

令和元年度 第1回
千曲市林業振興協議会

令和元年 5 月 20 日 (月)
13 時 30 分～15 時 00 分
上山田庁舎 3 0 2 会議室

令和元年度 第1回千曲市林業振興協議会

千曲市林業振興協議会出席委員

長野森林組合更埴支所	支所長	春日 賢一
NPO千曲の森	会長	小野 孝雄
若宮、羽尾、須坂、上徳間、内川、千本柳財産区	議長	小山 利雄
ちくま営農センター	センター長	近藤 修治
千曲市区長会連合会	土口区長	山崎 芳正
千曲市区長会連合会	須坂区長	福島 幸久
千曲市区長会連合会	新山自治会	北川 弘
長野地域振興局	林務課長	佐藤 繁
千曲市建設業協会	理事	古家 正紀

欠席委員

鳥獣保護員	鳥獣保護委員	杉本 一三
みどりの少年団育成会	更級小学校長	浅井 かよ子
一般公募		堀口 強

出席事務局

千曲市	経済部長	齊藤 清行
	農林課長	小林 千春
	森林整備係長	橋立 慎太郎
	森林整備係 主査	岡田 真一
	森林整備係 主事	横田 和也
	地域林政アドバイザー	宮崎 広雄
長野地域振興局	林務課 林産係	北澤 啓至
	専門幹兼森林保護専門員	

《協議事項》

- (1) 令和元年度 事業計画について
- (2) 松くい虫被害状況と今後の防除対策について
- (3) 千曲川下流地域森林計画について
- (4) 森林経営管理制度（新たな森林管理システム）への対応について

その他事項

- (1) 長野地域振興局林務課より
- (2) 第13回 みんなで育てる協働の森づくりについて
- (3) 千曲川下流域地域及び千曲市森林整備変更計画について
- (4) その他

《協議事項について、委員からの質問・意見等》

- 〇〇委員 (1)今やっている状況の話をしてもらったが、販売する木材はどうするのか。例えばアカマツやカラマツを販売できる。千曲市では市の建物に多少高くても市産材を使っているのか。そういうものの販売は千曲市ではどうなっているのか。そういった話が事業計画の中になぜ出てこないのか。
- 橋立係長 千曲市では、県から出ているものを基準にしている。千曲市内で公共施設を建てる際には県産材を利用する方針はある。大池総合案内所を建てる時も長野県産材カラマツを使用している。県の方針をふまえて建てている。単価的に高くなってしまっているので方針という中での示ししかできないが、県産材の利用は推進していきたい。
- 〇〇委員 市の財産である木を売るという発想がない。いちばん近いところだと松代小学校では造作に木を使った。入札の特記事項にもなっている。千曲市ではここ2, 3年で小学校、中学校を作ったが、そういうことをしているのか。どんな整備しても売れてなんぼのそれを地域に還元しなければ整備はできない。利益が出ればいいというものではないが、そういう発想でトータルまで考えてほしい。他の整備事業は環境だとか教育だとかいろんなことを考えているがこれは机上でもできる。実際に自分で思ってやっていく事業の計画を出してほしい。
- 橋立係長 今後の事業計画の中に盛り込めることがあれば盛り込んでいきたい。
- 〇〇委員 市産材や県産材を使えということですが、県産材や自家用の材を使うと一般の材を使うよりかなり高価になってしまう。県でも県産材を使うように

進めている。

- 委員 (2)松の被害について千曲市では拡大傾向にあるのか、被害状況の調査はしているのか。
- 地域振興局 近年は気温が高いため木が枯れているものもあるので枯れているアカマツは増えているが、どんどん増えているわけではない。気象害によって減らないのが現状。
- 委員 このままの現状でいくと被害が拡大していった対策を行う前にどんどん被害が大きくなってもっと対策が多くなっていくのでは。
- 地域振興局 枯れて2年間しか対策事業の対象にならない。対象にならない枯れた木をどうやって活用するかということで、森林税で枯れた木をチップにしようということもしている。補助の対象から外れてしまうので枯れた木が残ってしまう。
- 小林課長 私が森林整備係にいたころは空中散布をしていてそのときすでに消毒の良し悪しの議論はあった。個人の山の木なのだから個人がもっと意見を出してくれればいいのですが、消毒をやめてくれと言う方々は町に住んでいる一般市民。山の所有者からの自分の山を守ってくれと声がないまま、拡散を防ぐためやっていた。同じ目線で考えていただければもっとみんなが納得できる形で対応ができたのではないか。
- 委員 個人の山に被害があったとき県から助成金はでるのか。
- 小林課長 それも含めて伐倒駆除をしている。財産区や市有林はこの先の心配をしている。民有林、個人林に関しては山の関心が薄くなっている。唯一関心があるのが松茸山。もう一度みんなで山に目を向けるよう投げかけてはいる。伐倒駆除の経過をみるとそろそろ考え方の岐路にたっている。これから協議会などで議論をしていくべきだと考えている。
- 委員 環境関係で注目している。赤いものができるだけ少なくなるような対策をしているのであればお願いします。
- 委員 ここ3年くらいはマツ枯れと騒いでいたが今はそれほど進んでいない。財産区ではぼつりぼつりと枯れているが、まとまって全滅するところはほとんどない。財産区の山は標高が高いためか、最近に残っている。真っ赤になったものはどうしようもないので、その前に虫が木に入っている状態のものがどうなっているのかをプロの人に教えてほしい。
- 委員 800m以上に虫がいらないというのはどういうことなのか。
- 地域振興局 マツノマダラカミキリという虫が活発になる積算温度が800m付近でありそこを超えると動きが鈍る。長野は標高が高いので他の県とは異なる。800mというのは虫が活発になる積算温度からきている。
- 委員 (4)事務局で内容はよく練って考えていただきたい。間伐をすると下に網が張ってあり緩衝帯を作るとイノシシなど出にくくなるのでよろしく願います。
- 委員 個人の所有の山林は県民税を使って全部やってくれる制度になると思うがそういった形での整備になるのか。
- 橋立係長 今までも個人所有の山の手入れをどうやって行っていくのか、全国的に集

約化などもいろいろな施策を進めている。そこにうまく乗っかっていく山についてはそのまま所有者に同意をもらって林業事業者の間伐など依頼できたが、なかなかつながらなかった。そこをさらに推進していきたい。所有者や境界がわからなかったりするためそこについては市町村や都道府県が仲介してスムーズに行くように音頭をとってもらうのが今回の肝になるのではないか。

〇〇委員
橋立係長 面積 6900ha のうち個人が 3600ha あるが、他の市町村に比べてどうなのか。千曲市の特徴として、千曲市有林の貸付があるが、千曲市は境が複雑になっているためなかなか民間の事業ですべてやるのは難しい。面積的にはそんなに多いという感じではない。

〇〇委員 貸付で所有していて祖父母等が借りていて管理をしながら税金も払いながらやってきたが、ここ数年は返納が増えているのではないか。

橋立係長 だんだんと返地は増えてきている。

〇〇委員 返地の割合はどの程度あるのか。

橋立係長 年で 10 件ほどある。

〇〇委員 市が貸付けている土地は面積的にどのくらいあるのか。

地域林政アドバイザー 大体 180ha くらいある。

〇〇委員 個人が多かったから気になった。

橋立係長 貸付けの方が圧倒的に少ない。これからゾーニングを進めていく中で課題が少しずつ見えてくると思うが、簡単に全て整備できるようにはならないと考えている。